

走り続けよ、わがメロス

めざす会幹事 岡田中学教諭 大津寄 章三

教員生活最後の文化祭が終了した。今年はゆえあって太宰の「走れメロス」を脚色したミュージカル朗読劇なるものを上演、生徒たちの熱演のおかげで好評を博した。原作を踏襲しつつも、架空の一場を挿入したりコント仕立てのラップで台詞を回したりオリジナル曲をふんだんに盛り込んだりという、太宰在りせば目をむきそうな演出である。

この名作との出会いは古い。私がまだ中学生の時、担任の国語教師が県の研究会で（今思うと随分斬新な試みだが）作品を学級会形式で鑑賞するという焦点授業をしたことがあった。その教材がメロスである。当時学級委員だった私が授業の司会をすることになり、読んでおくよと担任から箱入りのメロス本（正確にはそれを含む太宰全集）をもらった記憶がある。

のちに私自身が新米の国語教師となったとき、やはり県の焦点授業をさせてもらったが、その時もメロスの一場面を放送劇風に創作・発表するという展開を選んだ。かつて担任にももらった箱本を読み返し本番に臨んだことを懐かしく思い出す。

また、前任校で長く演劇部を持っていたときもメロスはエチュードの「常連」であった。生一本で強情なメロス、温厚誠実なセリヌンティウス、強欲で奸佞な王、師を案じ続けるフィロストラトスなどのキャラ立ちした台詞は、感情表現の練習にうってつけであった。今もメロスは国語教科書の読書教材として生徒の視界に健在である。

生徒と朗読練習をしつつ、いつも私は思う。メロスは王との約束を守るため、また自分を信じ身代わりとなってくれた友のために走っているはずではなかったか。しかし、彼は刑場にたどり着く直前にこう叫ぶ。「間に合う、間に合わぬは問題ではないのだ。人の命も問題ではないのだ」いぶかしがるフィロストラトスに彼はさらに続ける。「私はなんだか、もっと大きなもののために走っているのだ」

この作品を鑑賞する生徒に必ず立ちふさがる課題である。なぜ間に合わなくても「問題ではない」のか。「人の命」とはだれの命なのか、友かメロスか、また二人ともなのか。「もっと大きなもの」とは何であるのか…この重たい波状の問いに生徒はとまどい、混乱し、議論を重ねる。多くの意見や推測が飛び交うことこそが授業の眼目であり、もしかするとその正解はひとつに収束しない哲学的命題なのかもしれない。

道理的にはメロスとその友が両者生きながらえることなどありえない。メロスが王の妨害やおのれの弱さに負けて間に合わなかったら、彼には友の死の記憶と悔恨に満ちた生が残る。逆に間に合えば磔台から降ろされた友はメロスの処刑を目の当たりにせねばならない。しかし、結果は大団円なのである。両者は生きて手を取り合い、人の真実と友愛に目覚めた暴君は二人の友となることを乞う。

これは果たして小説ならではの予定調和的なハッピーエンドなのであろうか。私には何か深い含意があるように思えてならない。太宰はそれをほのめかし読者にゆだねたが、もしかするとそれは人の世にたゆとう道理を超えた運命の力といったものなのかもしれない。全ての人(裏切られ続け人の心を反転させてしかみられなくなった王も含め)の心底に宿る真実なるものへの共鳴力、万人が味わわざるをえない友愛への感動、あらゆる障害をものともしない信念への共感、利害や立場を超越し名誉と誇りにのみ生きようとする純粋さへの憧憬…そのような人の結晶が時としてみせる奇跡にも似た結末を、この作品は示唆しているのではないか。悲劇、不幸、不運と世間が評する出来事すら人生に複雑な彩りを与え、人々をさらなる高みへと誘う出発点となるという凡人には見抜けない神のシナリオの不可思議さ妙々さを、私は今つくづく感じている。(初出 海南 e タイムズ)

夫婦別姓という "ムード" 〃

12月17日の最高裁大法廷の判断が下される何日か前に、産経新聞東京の大泉記者から夫婦同姓をされている方々に取材をしたいというお電話をいただきました。18日にご来松、旧姓の通称使用でお仕事をされている門田洋子さんをはじめ、4月に結婚されご主人の姓になられた新婚の方、離婚時に旧姓に戻したため息子さん家族と姓が違うことを残念がっておられる70代の方のお3人にお会いになりました。大泉記者からはメディア報道からは伺いしれない興味深いお話をたくさんお聞きしました。原告の家庭は既に崩壊していることは周知のことで、結局産経新聞のスタンスが正しいであろうことは他の記者たちも認めざるを得ない状況であるというのは愉快でした。今回あらためてご文章をお寄せいただきました。

産経新聞社会部司法クラブ

大泉 晋之助

皆さま、初めまして。産経新聞東京社会部で最高裁を担当しております大泉晋之助と申します。夫婦別姓の取材でめざす会さんにお世話になり、こちらでの執筆を担当することになった次第です。

ご存知の通り、昨年12月、最高裁大法廷は「夫婦は同じ姓を名乗る」と規定した民法条項について「合憲」との判断を示しました。結論からすれば明治以来続いてきた日本人の家族観に一定の評価を与えた穏当な内容になりました。判決については皆さまも報道でご存知でしょうから、現場で見聞きしたことをツラツラと書かせていただきます。

まずは「最高裁大法廷」について簡単に触れましょう。日本の司法制度上、確定的な「違憲」判断を示すことができるのは最高裁判事15人全員で構成される大法廷のみです。それだけに、ある訴訟が大法廷で取り上げられること自体が、司法制度の枠組みでは大ニュースと言えます。だからこそ、今回の訴訟でも、地・高裁段階に比べて、最高裁での報道が何倍もの扱いになっているわけです。

実はこの「段階別報道格差」とも言うべき現象を現場で目の当たりにし、私はある違和感を覚えました。

これまで、「選択的夫婦別姓」導入をめぐるっては何度かの波がありました。導入を提言した平成8年の法制審議会の答申、政権交代による民主党政権誕生といった頃は、代表的な波だと言えます。いずれも導入は見送られた訳ですが、最高裁をめぐる一連の報道はそれ以来の波でしょう。

弊紙の姿勢はご存知かと思いますが、それとは別に報道機関としては当然、賛否双方を幅広く取材した上で、自分たちの考えを盛り込まなければなりません。そんな中でこんな事がありました。

日本の高名な学者による研究機関「日本学術会議」という団体があります。首相が所管し、かつ政府から独立して研究が行われるという意味で、国内最高峰の研究機関の1つと言えるでしょう。その日本学術会議に設けられた複数のジェンダー関連の分科会が判決を前にした昨年12月上旬、大々的に記者会見を行いました。「男女共同参画社会形成に向けた民法改正の提言」を内容とした

ものです。この中には夫婦別姓推進が盛り込まれています。^{くだん}件の判決直前ですから、大手メディアからフリージャーナリストに至るまで、当日は夫婦別姓推進派が多く詰めかけ、熱気に満ちたものとなりました。

ただ、ここで注意したいのは、この提言、何も目新しいものではないということです。この日に先立つ約1年半前、平成26年6月にも同内容の会見を行っているのです。つまりこの日は「焼き直し会見」でしかないわけです。

そして私が感じてきた違和感がどこにあるのか、その「解」がこの12月の会見ではっきりしました。会見中、ある学会の関係者が熱気を目の当たりにし思わずつぶやいたのです。

「昨年の発表ではほとんど取材してもらえなかったのに」。

今回の裁判をめぐる一連の報道で、推進派メディアは「長年、一貫して別姓推進を強く主張してきた」との立場を強調していました。しかしどうでしょう。「われわれは別姓推進の立場を貫いてきた。こうした声に耳を傾けるべきだ」としながら、仮にも日本最高峰の研究機関の発表について、「生」のタイミングでは取材せず、「焼き直し」のタイミングで取材し、さも熱気が高まっているかのように報道する。これが一貫した立場でしょうか。

世の中ではムード、ブームのようなものに乗る報道が繰り返されてきました。一連の「反安保」報道もこうした側面が見え隠れしているように思えます。例外的なごく一部の学生らを取り上げることでニュース価値を意図的に高めようとしています。実際の世の中の賛否はどうか。客観的な情報と一部の熱狂は切り離されるべきだと考えるのは私だけでしょうか。

現場でこうした違和感を目の当たりにできたことは、夫婦別姓訴訟の取材を通じて得た、私にとっての大きな教訓となりました。新たな現象を皆さまに伝える使命がある以上、私も世の中のブームやムードを伝える必要があります。しかし、現象に流されず腰の据わった取材をいかに続け皆さまにお伝えするのか。記者人生を続ける以上、大きな課題となりそうです。

慰安婦問題

2月21日（日）付産経新聞「歴史戦～日韓合意の波紋」より

近現代史研究家の細谷清と反日活動の阻止を目指す民間グループ「なでしこアクション」代表の山本優美子は「From misunderstandings to SOLUTION（誤解から解決に向けて）」と題するカラー刷りの英語の小冊子を作成。今月中旬にジュネーブで開かれた国連女子差別撤廃委員会で委員に配布した。「慰安婦問題の真実を外国の人に少しでも理解してもらいたい」と山本は話す。

ジュネーブの国連欧州本部で16日に開かれた女子差別撤廃委員会の対日審査。15日の会合では最も参加者の多い日本から8人が計15分発言し、5人が慰安婦問題に言及した。このうち元衆院議員、杉田水脈と「なでしこアクション」は委員会に対し慰安婦問題で日本政府に事実関係をただすように求めた。2人は昨年7月の同委員会準備会合でも、強制連行を示す資料の存在が確認されていない点や「慰安婦狩り」の虚偽の証言を行った吉田清治の存在などを説明している。

このときの2人の発言に委員からは「慰安婦問題に関するこれまでの（強制連行説などを唱える）意見とは異なる内容だ」との感想があった。今回の日本政府への質問にも反映されたとみられる。

強制連行について政府が国連の場で説明を迫られる結果となったことに保守系は勢いづいたものの、昨年末の慰安婦問題に関する日韓合意には衝撃が走った。「多くの人が、慰安婦問題の真実を広めようと一生懸命にやってきたのに、謝罪や新たな資金提供などはこれまでの活動を否定する内容だどがっかりしていた」と山本は明かす。

しかし、山本らは落胆する仲間たちを鼓舞した。その結果、保守系の8団体が委員会に対して慰安婦問題の事実関係を伝える報告書を提出した（事務局注：そのひとつがめざす会です）。山本た

ちは対日審査で日本政府が日韓合意にかかわらず、強制連行説や20万人説を否定したことを「大きな進歩」と評価した。

「この説明が国際社会に浸透するためには、日本にとどまらず海外での発信がますます重要になる。」左派の牙城である国連の会合に挑んだ保守系メンバーたちの総括だ。

人はなぜ糖尿病になるのか

テレビや週刊誌で糖尿病が話題になっています。一度罹るとなかなか治らないことや、悪化すると心筋梗塞、神経障害、また失明さえ引き起こすとして恐怖心が煽られています。どういう心持ちが糖尿病の原因になるのか。現代人が、自分が気がつかないうちに怒ったり恐怖したりしていること、そしてその感情を自分の中に押し込めているかが分かります。

恐怖というものはどういうふうに肉体に影響してくるかと申しますと、宗教的に説かなくても、近代の新しい生理学を調べてみましても、それはわかるのであります。恐怖心とか怒りの感情とかいうものは、われわれのこの肉体の内部に分泌するアドレナリンの分泌量を非常に増すのであります。このアドレナリンというのは一種の毒薬でありまして、注射量が少し多かっただけで死んでしまう

というような毒性の劇しい内分泌液でわれわれの副腎というところから分泌している。それが適量であるからわれわれは健康に生活しているのであります。われわれが怒ったりあるいは恐怖したりするとこのアドレナリンの分泌量が非常に増えてくるのであります。われわれの血液内のアドレナリン量が増えてくるとどういう状態になるかといいますと、アドレナリンを適量以上に血管に注射したと同じような症状を呈してくる。アドレナリンを適量以上に血管に注射するとどうなるかとい

うと、毛髪が^{しょうりつ}立したり、涙が出てきたり、冷汗が流れたり、あるいは悪寒戦慄を覚えるというふうな状態を起こしてくるのであります。そうして血液の中の糖分が増してきまして、尿を調べてみますと糖尿が出ているというふうになる。これがまずアドレナリンの分泌量が増えてきた時に起こるところの生理的反応であります。そしてアドレナリンの含有量の多い血液が胃袋へ循環するとどういふことになるかといいますと、胃袋の平滑筋が弛緩して胃袋が収縮しなくなります。胃アトニーであるとか胃下垂であるとか、なかなか医学で治らぬというふうな病気がありますが、こういう病気は慢性恐怖症のために副腎のアドレナリンの分泌量が多いために胃袋の筋肉が弛緩してしまって収縮しなくなるのです。(略)恐怖心とか怒りの心とかいうものがアドレナリンの分泌量を増し、アドレナリンの含有量の多い血液が循環して胃袋へ行くとそういうふうに胃袋がダラリと伸びて活動しなくなる。すなわち胃アトニーとか胃下垂状態を示して胃袋が働かない。胃袋が働かなければ胃袋は多量の血液は不要であるから、その血液はどこへ行くかということ、頭部へ鬱血して怒髪天を衝くとか、あるいは心臓の方へ行って心臓の動悸を早くするとか、肝臓に貯蔵するグリコーゲンを糖に変じて血液中に送り出すとかし、血液の中の糖分が増えてそうして筋肉の収縮力が増えてき、イザというとき相手に対してぶつかるために筋肉を動かす燃料までの用意ができるわけです。恐

れるとかあるいは怒るとかいうふうな時にはちゃんとそういうふうに身体内部の^{ホルモン}内分泌に変化を起こして、今は胃袋の消化なんかしている時ではないと、われわれに危害を加えんとする相手に腕力をもって対抗せんとするために、いっさいのエネルギーをその準備に集中するのであります。ところが、少くとも恐怖したり腹が立ったくらいで相手を殴りつけて血液中の糖分を消費してしまうわけにはまいりませんから、たえず小さな恐怖心や腹立ちの心を蓄積しておりますと、慢性的に血液中の糖分が殖えているために、その過剰の糖分をどこかへ排泄しなければならぬということになって、その人は糖尿病にかかるのであります。糖尿病になって医者にかかっただけで済ませないで、医療ではなかなか治りにくい。インシュリンの注射をやったり、いろいろの食物養生をやらせられる。澱粉食はいっさいいかぬ、糖分食はいっさいいかぬ、脂肪と蛋白ばかり食べよ、御飯はたべられないというふう言われ、今度は病気恐怖、食物恐怖に変わってくる。恐怖が原因で血液中の糖分が殖え、糖尿病にかかっているのに、医者が食物恐怖を植え付けますから、一所懸命食物養生をやり

ましても、体内の内分泌が変わっているのですから、依然として糖を製造し、普通食を少しずつ摂ると、さらに糖尿を排泄して永遠に根治するということはないのであります。

(谷口雅春著『生命の真相』 第29巻)

羽生結弦くんとお母様

このお母さまの献身がなければ、羽生選手のあの素晴らしい演技もなかったのですね。羽生選手は、磯田道史著『無私の日本人』に登場する「穀田屋十三郎」で時代劇にも挑戦されます。

羽生はグランプリファイナルで史上最高得点の330点越えで優勝を果たし、「神が降臨した」と世界が称賛。誰もが認める"絶対王者"となった。だがその陰にはいつも、見守り続ける母・由美さんの姿があった。

4歳のときに姉の影響でフィギュアスケートを始めたという羽生。だが当時の彼は"絶対王者"とはほど遠い臆病な少年だったという。

「彼は2歳のときに小児ぜんそくにかかっていたため体力もなく、精神的にも今では想像できないほどもろかった。先生に怒られてしょっちゅう泣いていましたし、フィギュアをやめたいと漏らしていたこともありました。でも彼のそばにはいつもお母さんがいて、何かあるたびに『結弦ならできる』と励まし続けていました」(仙台のフィギュア関係者)

だが、羽生家はごくごく普通の家庭。莫大な費用がかかるフィギュアは、家計を大きく圧迫していた。

「彼が9歳のときに"家族会議"が開かれたそうです。そこで父親は、羽生選手がフィギュアを続けることに反対したそうです。経済的な理由もあったのでしょう。でもそのとき由美さんは『結弦は将来、必ず世界に羽ばたく子だから!』と必死に訴えたそうです。そしてパートを掛け持ちするという条件まで出して、夫を説得したそうです」(前出・仙台のフィギュア関係者)

当時、スーパーの紳士服売り場で働いていた由美さんはクリーニング店のパートも掛け持ち。さらに試合の衣装は夜なべして手作りするなど、少しでも家計の負担を抑えるべく奔走していたという。

こうした母の涙ぐましい頑張りが報われ、めきめきと才能が開花していった羽生。18歳になるとブライアン・オーサーコーチの指導を受けるべく、カナダに渡った。このときも由美さんは「家族と離れ離れになっても結弦についていく」と即決した。

「羽生選手は食が細く好き嫌いもあるため、由美さんは熱心に栄養管理の勉強を続けていました。今でも、専門の栄養管理グループと頻りに情報交換しています」(カナダ在住のフィギュア関係者)

そしてガラスのように繊細だった羽生の心のケアも、由美さんが率先してケアしていた。

「羽生選手はジュニア時代から本番直前になると『絶対にミスできない』と思うがあまり、過呼吸のような状態になることもあったそうです。さらに緊張のあまりトイレに駆け込むこともあったといひます。そのプレッシャーは、成績を残せば残すほど強くなっていきました。

由美さんは、自分にできることはないかと必死に考えました。そして整体心理学を勉強し、"あがり症"を克服するメンタルコントロールを学んだそうです。そのひとつが呼吸法で、大きくメリハリをつけた深呼吸をさせて、心身をリラックスさせる。その効果は絶大で、いまや羽生選手のメンタルの強さは誰もが驚嘆するほどになりました」(前出・カナダ在住のフィギュア関係者)

まさに全身全霊で羽生をサポートしてきた由美さん。世界を驚かせた"絶対王者"の姿は母子で築き上げたものだったのだ。

「羽生選手は『お母さんはフィギュアの専門家じゃないから技術的な指導はできないけど、感覚的なアドバイスをくれる。その視点が意外と新鮮で効果的なんです』と評価していました。そして、

感謝と尊敬を込めて由美さんのことを"もうひとりのコーチ"とも言っていました。

「史上初となる3連覇を達成したことで、羽生選手にはメディアが殺到しました。すべての取材を終えて、宿泊先のホテルに戻った彼は、由美さんに『ありがとう』と言いながら首に金メダルをかけてあげたそうです。」(スポーツジャーナリスト)

(光文社『女性自身』1月5・12日合併号より抜粋)

国際派日本人の情報ファイル

JOG Tweet 中国(24) 国内親中勢力

この方のメルマガは格調高く素晴らしいものばかりです。それだけに、このツイート集も単なる噂ではないと確信いたします。

伊勢雅臣

■ 中国工作

◆明らかに中国風の漢字(^_^;;反原発さんはもうちょっと上手く偽装しろって。RT kiyokawazu 京都タワーの根元で、集团的自衛権容認反対アクションなう。横断幕の文字がちょっとレトロ?でも気合い入ってます <http://twitter.com/kiyokawazu/sttus/479923770434400256/photo/1...> 2014年06月20日(金)disneyworld@disneycruise200

◆辺野古のテント村にいる活動家に「あなた方の活動費はどこから出ているんですか」と聞いたら「寄付で賄っています」「どこからの寄付が多いんですか」と聞いたら「平和をこよなく愛する中国の方々」。あまりに自慢げに言うものですから、言葉を失いました(笑) 致知 25.12 手登根安則 2015年03月13日(金)

◆習近平はこの2年間で、日本を正面から叩くのは効率が悪いと学んだはずである。日本の最大の弱点は、国内中枢部の親中勢力、そこをつながる経済界、メディア、学界である。おそらく彼らは再び日本のそうした部分に「手をつっこんでくる」はず。正論 27.2 中西輝政 2015年04月06日(月)

■ 沖縄反基地活動

◆与那国島で自衛隊配備の施設の起工式で反対の「市民」たちが押し寄せて「怒号」したという。日本を守るための日本の自衛隊の施設はどうして日本人に反対されるのか理解に苦しむ。それを見て喜ぶのは中国の習近平だから、反対する「市民」たちは結局、習近平の「紅衛兵」をやっているようなものである。 2014年04月22日(火) 石平太郎@liyonyon

◆沖縄に集まって「ジュゴンを守れ!」などと発狂して叫んでる人たちはなぜ「宝石サンゴ」密漁の中国に抗議しないの? あれも日本の海の「環境破壊」だろうが! 一部の地域の環境破壊だけを騒ぐのは納得出来んよ <https://pic.twitter.com/ZT0XQMZ5bX> 2014年10月31日(金) 丘田@okada014

◆米軍を撤退させ且つ自衛隊をも要らないと叫ぶ連中の狙いはここにある。そうは行くか! ★中国の野望とは。 <https://pic.twitter.com/QEXMObFBil> 2015年03月24日(火) 丘田@okada014

■ 二重基準

◆@koba1911 @smap0909 @mayukookada @mottyuu 日本の自衛隊や政府に対しては「そんなことしたら戦争になる!」って危機感ものすごいのに、中国や朝鮮がミサイル撃ってきてても、領海侵犯しても、自衛隊の船をロックオンしても、危機感0%ですもんねえ。 2014年04月16日(水) ひといきつく@hitoikitsuku

◆【赤旗】侵略戦争美化の「愛国心」教育、異常な競争主義の教育を許さない <http://fxya.blog129.fc2.com/blog-entry-1393.html...> その通り。中国共産党によく言ってきたかきかせてやれ 2014年04月22日(火) さくら@mFOLFOX6

◆戦争反対、平和を愛する左翼はどうして中国に侵略やめろと言わないの? どうして北朝鮮にミサイル発射しないでと言わないの? 拉致された人たちを返してくださいと言わないの? どうして韓国に産経新聞の人を返してくださいと言わないの? どうしてあべしねと言うの? 教えてください。 2015年03月28日(土) yunhan wang@yunhanwang1

■ 教 育

◆日本の名門私立女子中学の入試問題が酷すぎると話題「中国や韓国の友達ができたら先祖のしたことについて謝ってほしい」「祖父たちの海外での金儲けが戦争の原因」 - 厳選！韓国情報

<http://gensen2ch.com/archives/661245.html>… 2014年05月17日(土) さくら@mFOLFOX6

◆【事務局】渋谷駅街宣の様子です！『日本人の学生は奨学金の返済にとっても苦しんでいます。しかし中国や韓国の留学生には毎月14万5千円の奨学金と旅費等の全てが返済不要で私達の税金から支払われています。差別です！公明党がそうしているのです！』

<https://pic.twitter.com/r0AG9pXK5k> 2014年12月07日(日) 田母神俊雄@toshio_tamogami

◆いま中国、韓国からの留学生に毎月14万2500円の奨学金が支給されます。また授業料も国立大学は免除、私立大学は文部科学省負担ということで、彼らは大変優遇されています。医療費の80%、日本に来るとき、帰るときの飛行機代も日本負担です。住宅手当も出ます。日本人大学生が可愛そうです。 2014年12月20日(土) 田母神俊雄@toshio_tamogami

■ 民 主 党

◆【定期拡散】「中国からミサイル撃ってきたらどうしますか？」の質問に無言逃亡する辻元清美の証拠映像！！YouTube で発見したので定期拡散wwこれが民主党の売国議員の正体です！！

<http://twitpic.com/e7a9uu> #河野談合 2014年07月20日(日) 神楽坂茂助『真日本皇国・皇国民』

@mosuke_kaguraza

◆民主党議員団がNHK会長を怒鳴り散らす場面をみていると、中国共産党の人民裁判や昔の紅衛兵のやる「吊るし上げ」とそっくりそのまま。この党は単なる中国共産党の日本支部なのか。民主党議員たちは日本版紅衛兵のままで議員になったのか。とにかくこのような政党に二度と政権を任せられないのだ。 2015年02月19日(木) 石平太郎@liyonyon

■ 舛 添 知 事

◆舛添知事が訪中した際に、中国から印鑑を貰って喜んでいたりとか。空いた口が塞がらん。中国で何を貰っても構わんが、印鑑だけは受け取ってはいけなかった。印綬は中国が臣下に印章を授けることで官職の証とした制度。卑弥呼じゃあるまいし。。。まさか舛添知事は東京都を中華帝国の冊封に入れる気か？ 2014年08月23日(土) 竹田恒泰@takenoma

◆@inosenaoki @dotcoi: @kitanihonganba: 猪瀬前都知事お元気ですか？舛添さんと交代して下さい。舛添さんは必死で韓国、中国にスリよって国益を損ねています。色々有りましたが復帰はどうですか？ <https://pic.twitter.com/CHr68vQ5GZ> 2014年09月07日(日)

abck50@abck50

◆一度やらせてみてくれ。子供に手当も出すし、働き口も増やすし、給料も上げてやる。いい暮らししよう。なっ？ って言って任せたら、韓国人・中国人呼んで宴会開いてお土産持たせて仕送りして、日本人は足蹴にした民主党が、もう一度チャンスをとか…

<https://pic.twitter.com/QjE26IddO> 2014年12月03日(水) きやすめ。@ZeroE13A1

◆支那を訪問、帰国した舛添都知事が安倍首相と面会、「靖国問題を含めて歴史認識などで中国政府は厳しい認識を持っている」と報告したと報道されている。で、都知事はどう思ったのか、何を反論したのか？そんな事も追及できないメディアも、舛添都知事も、中国共産党のただのメッセンジャーに過ぎない。 2014年04月28日(月) 西村幸祐@kohyu1952

■ 左 翼 文 化 人

◆日の丸にバツテンを書き更に釣魚島は中国の領土ですか・・・サザンはライブで平気でこんな映像を流すバンドだったんだね 冗談じゃ済まんよコレ

<https://www.youtube.com/watch?v=CziB7v6GMo>… <https://pic.twitter.com/htLxcfGcv2> 2015年01月02日(金)

◆大江健三郎氏が10日の記者会見で「原発がない世界を実現するほかない」と言って日本の原発再稼働を批判した。同じ日、隣の中国は一気に二基の原発の建設を許可。しかし大江氏は絶対、中国の動きを批判するようなことはしない。彼らにとって、中国の原発は「良い原発」で日本の原発だけは悪いのだ。 2015年03月12日(木) 石平太郎@liyonyon

◆田嶋「中国や韓国の言い分も書いて子供たちに考えさせなければ」竹田「韓国の教科書に日本の

言い分が書かれていますか？」田嶋「だから書いてもらうんだよ」全員「書くわけないでしょ（失笑）」田嶋陽子の意見は中韓が教科書に日本の立場を明記してからの話。 #takajin 2015年04月20日(月) 甘茶@amateur2010

◆宮崎駿監督が「沖縄を非武装地帯にすれば東アジアが平和になる」云々と言うが、はっきりと言って、彼は中国の野望や国際政治の基本について全く無知だ。彼が東アジアの安全保障についても言うことの愚かさは、私石平がアニメの製作技術を語るのと同じである。2015年05月13日(水)

◆浅田次郎氏が自民党の会合で「中国が待っているのはこの言葉だ」と言って、首相の70周年談話に「侵略」の文句を入れるべきと主張した。つまり、日本の首相が自国の歴史に評価を下すのにまず中国の意向に従うべきと彼が言っているのだ。浅田さんよ、日本という国はいつから、中国の属国になったのか。 2015年05月26日(火) 石平太郎@liyonyon

良書のご紹介

『日米戦争を起こしたのは誰か』

～ルーズベルトの罪状・フーバー大統領回顧録を論ず～

序－加瀬英明 著－藤井巖喜・稲村公望・茂木弘道 勉誠出版

(1500円＋税)

米国の封印50年、フーバー大統領の大著 "FREEDOM BETRAYED" が明かす、衝撃の事実！

「狂人の欲望が日米戦争を起こした」と私が言うと、マッカーサーが同意した。

私は更に続けて次のように言った。「1941年7月の（日本への）経済制裁は、単に挑発的であったばかりではない。それは、例え自殺行為であると分かっている、日本に戦争を余儀なくさせるものであった。なぜなら、この経済制裁は、殺人と破壊を除く、あらゆる戦争の悲惨さを（日本に）強制するものであり、誇りのある国ならとても容認できるものではないからだ」。この私の発言にもマッカーサーは同意した。

フーバー大統領はきわめて実証的に次の主張を展開している。①日米戦争は、ルーズベルト大統領が仕掛けたもので、日本の侵略が原因ではない。②1941年、ルーズベルトは日本側の誠実な和平への努力を受け入れる意図は、初めから全くなかった。③原爆を投下せずに日本を降伏させることが出来た。原爆投下の罪は、重くアメリカ国民の上にのしかかっている。日本人にとって、必読の書である理由が、ここに存在する。フーバーは、東京裁判史観を真っ向から全面否定しているのである。

フーバーが指摘するルーズベルトおよびアメリカの政治の大道からの「逸脱」19ポイント
1933年の共産ロシアの承認・宣戦布告なき戦争（ドイツ・日本に）・ソ連共産主義を助けたこと
・1941年7月の日本への経済制裁・1941年9月近衛和平提案を拒絶したこと・無条件降伏の要求
・1943年10月のバルト三国とポーランド東部のソ連への譲渡・原爆投下・毛沢東に中国を与えたこと・戦後世界に共産主義の種を撒いてしまったこと等々

拉致問題の闇 西村眞悟の時事通信 平成28年1月14日(木)

拉致問題の最大の闇は、「拉致被害者を救出しようとする者を貶めようとする力」「拉致被害者の救出から国民の目を逸らそうとする力」が政界と官界をはじめとする社会各層に根を張りうごめ

いているということだ。

この度の予算委員会でも、この闇の力が提供した材料に飛びついた質問が行われたようだ。曰く、「首相は拉致を使っただけの上がった男か」と。

そこで、この質疑に関して、平成十四年の十月に五人が帰国した時の真実について語っておこう。

まず、帰国前月の十七日午前十時頃、訪朝した小泉総理が、北朝鮮から「拉致被害者の内五名は生存しているが八名は死亡した」と告げられた。その時、北朝鮮は八名の「死亡年月日、死亡原因リスト」を日本側に渡した。その七時間後、小泉首相は平壤で、日本が多額のカネを北朝鮮に支払って日朝国交樹立を約束した平壤共同宣言に署名した。そして、トラック二台分のマツタケをお土産に貰って政府専用機に乗せて帰国してきた。

その平壤共同宣言署名のまさにその時、つまり、午後五時、東京では官房長官と外務副大臣が、拉致被疑者家族を個別に個室に呼んで「まことに残念ですが、貴方のお子さんは既に死亡されてます」と死亡宣告をした。

その後帰国してきた訪朝団は、不可解にも北朝鮮から渡された「死亡年月日、死亡原因リスト」を隠して公表しなかった。しかし、そのリストは、マスコミのスクープによって明らかになった。そして、拉致被害者救出に携わる朝鮮語に堪能な西岡力や荒木和博が、そのリストを点検し、直ちに、これはおかしい、虚偽だと見破る。結局、横田めぐみさんを始めとする八人死亡という宣告は北朝鮮の「ウソ」だった。

問題は北朝鮮がウソをついたことよりも、何故、日本側が、リストを隠してそのウソの通りの死亡宣告を被害者家族に行ったのかである。その理由は、死亡したと家族に信じさせれば、拉致問題自体が無くなり日朝国交樹立の障害が無くなるからである。従って、あとは生きている五人が、「首領様のもとで幸せに暮らしています」と言って自主的に「北朝鮮で暮らしますからご心配なく」と言えば、拉致問題は完全に無くなり日朝国交樹立になる。

それ故、日朝国交樹立によって日本からのカネが喉から手が出るように欲しい北朝鮮は、翌十月、五人を帰国させてきたのだ。そして、その帰国の際、日朝の担当者は、一週間から十日で、帰国した五人を北朝鮮に帰すことを合意している。北朝鮮は、日本から北朝鮮に戻ってきた五人に、「首領様のもとに帰れて嬉しい、これからもここで生きていきます」と言わせて、そのビデオメッセージを日本国民に見せつける予定だった。

以上、八名の死亡と帰国した五人のビデオメッセージで拉致問題は無くなる。これが、北朝鮮と日本の「当局」との一致したシナリオである。

そして、その魂胆の元で五人が日本に帰ってきたのだ。羽田空港に着いたチャーター機から五人が中山恭子さんらに付き添われて降りてきた。全マスコミと拉致議連議員そして家族関係者が帰国した五人を囲んでターミナルの方に姿を消していった。

チャーター機の回りは無人になった。しかし、私と佐久間という仲間はそのチャーター機の下で、必ず北朝鮮からの監視員が同行しているはずだと待ち構えた。果たして彼ら（二人）は出てきた。私は彼らの顔を写真に撮り、拉致議連の中川昭一会長と打ち合わせてマスコミに拡散し、これによって彼らの隠密行動を不可能にした。

私たちは、チャーター機の下でなおも待った。佐久間はチャーター機に上がって機内を点検しきて、一人もいないと私に報告した。すると機内から沢山の北朝鮮からの荷物が運び出されてきた。帰国した五人は、北朝鮮のお土産を持たされていたのである。お土産以外の大量の荷物が何か分からなかった。

帰国した五人がそれぞれ郷里に戻る報道が続いているときに、外務省の幹部が、われわれ拉致議

連幹部に「彼ら五人を北朝鮮に帰さねばなりません」と言ってきた。それに対して、最初に平沢勝栄議員が「そんな、馬鹿な」と言った。外務省が、五人を帰すことは国家間の約束ですからと反論した。「国家間の約束には国会の議決がいる。そんな約束知らん」と私が言った。それでも、外務省の馬鹿幹部のおっさん（名前など忘れた）が、唇を振るわせて帰さねばならないんです、と言っていた。

我らは、絶対に五人を帰したらいかん、と言い張った。外務省のおっさんは反論に疲れてきた。そのとき、後ろの方から女性の小さな声がした。見ると、内閣参与の中山恭子さんが私たちに念を押そうとしている。「あの一、五人は北朝鮮に帰さない、それで、いいんですね」私たちは、そうです、と言った。すると、中山恭子さんは、「五人は北朝鮮に帰さない、それでいきます」と言った。外務省は絶句していた。これが、我々が、政府内閣内から五人を帰さないという発言を聞いた最初であった。

それから、政府内および内閣内での、五人を北朝鮮に帰すという外務省路線の絶対多数派と、帰さないという拉致被害者救出派の攻防があった。中山恭子内閣参与と共同して戦ったのは安倍晋三官房副長官である。そして、安倍晋三は、中山恭子さんと共に帰さないという当然の原則を掲げて、外務省路線（あえていう、闇の中の悪の路線）に打ち勝ったのである。

もし仮にあの時、五人を北朝鮮に帰しておれば、どうなったか。彼らの帰国後、平壤から五人の映像が送られてくる。そのなかで、五人は、言わされる。「平壤の首領様のもとに戻れて幸せです」と。そのとき、拉致問題も、拉致被害者救出運動も終わる。そして、我が国は小泉総理と金正日の平壤共同宣言に則って、北朝鮮に対して彼の国の国家予算の五倍のカネを提供する。そのカネで、北朝鮮の独裁者一族は世界一の金持ちになってブタのように肥り、北朝鮮政府は早急な核開発と核ミサイル開発を進める。そのうちに、その核ミサイルは日本に向けて実戦配備される。

即ち、我が国は、天に向かって唾を吐くように、地球上のもっとも危険なテロ支援国家に転落している。

これで、明確だろう。拉致問題における外務省路線は闇の中の悪の路線である。しかし、この路線は、今も健在であり一昨年のストックホルム合意においても、未だ、平壤共同宣言に則って、北朝鮮に巨額のカネを支払って日朝国交樹立を目指している。そして、その為の最大の障害を拉致問題であると位置付けて拉致被害者を救出するよりも、「拉致問題という障害」をなくそうとする。その為に、この路線を推進する闇の力は、拉致被害者を救出しようとする者を貶めようとするのだ。かく言う私も、そのターゲットである。従って良く分かる。

この度の、予算委員会での安倍総理に対する質問もその一環である。質問者は元外務省官僚だということも符合するではないか。

蓮池薫さんの講演

【調査会 NEWS2121】(28.2.17)

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

2月13日に千葉県市原市で蓮池薫さんの講演がありました。私は参加していませんが、参加されていた方から内容についてお聞きし、いくつか非常に興味深いことがありました。

一つは問題になった兄透さんの本とかなり違ったことを言っているという点。たとえば透さんの本では薫さんが横田さん夫妻にめぐみさんが死んだことを伝えているのに信じようと言っていたと書かれていますが、薫さんはめぐみさんの死自体を否定しています。講演の中でこの本のことにも触れ、（兄のやったことに対して）お詫びの気持ちで話したとも言っているそうです。透

さんの本はその意味で薫さんから聞いた事実を書いたというより、何者かの意志と情報に基づいて書かれたのかも知れません。

また、拉致の目的について薫さんは「工作員の教育係」ではなく「工作員にするため」と明確に言ったそうです。もともと工作員の教育係というのは昭和51年(1976)の金正日の指示(工作員現地化)を根拠としているのですが、それよりも直接工作員にする目的が先にあり、それがうまくいかなかった場合に教育係ということだったのでしょう。そう考えれば中学校1年生の少女を拉致しても全く不思議ではありません。元工作員安明進氏も若い方が洗脳しやすいのではないかとっていました。

もう一つ、薫さん夫妻を返すことになったとき、最初北朝鮮が書いた筋書きは海岸に行ったらボートがあり、それで沖に出たら漂流して北朝鮮の船に助けられた。あとは自分の意志で北朝鮮に残ったというものだったそうです。いくら何でも無理がありすぎて北朝鮮当局も諦めたようですが、これは寺越事件と同じ筋書きであり、また横田めぐみさんの夫であった韓国人拉致被害者金英男氏の話とも酷似しています。場合によったらボートや船が漂流していた明石靖彦さんや矢倉富康さんのケースとも関連があるかも知れません。

薫さんもここまで公開の場で話せるなら、ぜひ国会とか、より公的な場で話してもらえないかと思えます。話せないことも色々あるとは思いますが、この講演で話したことだけでも十分に意味があります。与野党もつまらないことで揚げ足取りや弁明をして時間を浪費するよりこういう話でも聞いた方がはるかに価値のあることであるはずですよ。

救う会愛媛

椿祭り啓発活動に7名の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。
以下の通りご報告申し上げます。

	14~16日	15日のみ	昨年
署名数	4,382筆	1,260筆	3,356筆
募金額	508,923円	175,952円	474,048円
ブルーバッジ配布	481個	156個	85個(+タオル396枚)

めざす会の担当は、15日(月)の午後2時~4時でした。森川建司さんが1時間半にわたりマイクを持って参拝者に協力を呼びかけて下さりました。微塵の疲れも感じさせることもなく元自衛隊の根性を見せて下さいました。おかげさまで署名をして下さる方が途切れませんでした。

宇都たかし参議院議員講演会—3月6日(日)

宇都隆史氏のプロフィール

昭和49年 鹿児島市生まれ 原良小、城西中、鶴丸高校卒
防衛大学校(航空宇宙工学)第42期卒
平成10年 航空自衛隊 入隊 三沢・稚内・春日基地勤務
平成19年 航空自衛隊 退職

平成22年 松下政経塾 卒塾
平成22年 参議院議員 初当選

外交防衛委員会委員・予算委員会理事・自民党国防部会副部長

日時：3月6日（日）午前11時～12時10分（10時半開場）

会場：道後 大和屋本館2階 入場：無料

演題：21世紀の日本の道標～外交・安全保障の側面から

主催：愛媛県隊友会 お問い合わせ：森川建司 090-5916-6562

◆◆ 事務局から ◆◆

★いよいよ年が明けて、フィリピン行幸啓の一月に入った。そして、十四日の「歌会始めの儀」が宮中で行われた。「戦ひに あまたの人の 失せしとふ 島緑にて 海に横たふ」

これは、昨年四月九日、天皇皇后両陛下が、玉砕の島ペリリュー島の慰霊碑から五キロほど沖に浮かぶ同じく玉砕の島アンガウル島をのぞまれて詠まれた御製である。私は、両陛下のその慰霊の時にペリリュー島にいて、そのお姿に涙したのだ。此の度の歌会始めの御製を拝し、沖縄、硫黄島、サイパン、そして昨年のパラオのペリリューとアンガウル、そして本年のフィリピンのルソンとレイテへと、天皇の戦没将兵を思う大御心は、一日たりとも途切れることなく流れている、私の心は、この思いに満たされた。（西村眞悟の時事通信 1月16日）

★4月10日（日）の午前中に高橋史朗先生の講演会「親学の最新動向」を開催致します。ちらしをお入れ致しました。3年半前に親学推進協会の「親学基礎講座」を愛媛で開催。続いて「親学アドバイザー認定講座」が開催されるはずでしたが、受講者が20名に達しそうになかったことから中止に。しかし、この度、めざす会が買い取る形で、4月10日と17日（日）の2日に亘り開催が実現しました。高橋先生は6講座のうち10日の第1講座を担当されますが、折角のご来松ですので、高橋先生の講座を公開にしめざす会第12回講演会とさせていただきますことになりました。

★3月20日（日）椿神社で田下昌明先生の憲法講演会が開催されます。

★皆様、昨年1月に上映された台湾映画『KANO』をご覧になりましたか。【2016総統選挙】に関するニュースの中に、「陳瑩氏が国政に復帰」というのがありました。この方は嘉義農林野球部の「上松耕一」のお孫さんで民主進歩党。平地原住民選挙区から立法委員(国会議員)に返り咲かれました。甲子園初出場で準優勝を飾ったKANOを育てた近藤兵太郎の生涯については古川勝三先生の『台湾を愛した日本人II』を是非お読み下さい。

★週刊ポスト（2月19日号）に、台湾で教師をされていた方と当時の生徒さんたちの感動の物語がありました。コピーを同封致しました。下欄に【注】のある映画「海角7号～君想う、国境の南」は当時、松劇でも上映されました。

★『郷守人（キモンド）』を同封いたしました。発行人の畠奈津子さんは昭和53年8月15日生まれ、福井県福井市のご出身。小林よしのり氏のもとでアシスタントとして約2年間"修行"を積んだのち、中国によるチベット弾圧を描いた『チベットの悲劇』でデビュー。昨年12月に届いた第110号にバックナンバー「南京攻略戦は世界の軍隊が鑑とすべき模範的な戦いだった！」が同封されており、松井岩根大将の出された実に立派な大義や注意事項に触れることができました。今回『なでしこ通信』に同封すべく送っていただきました。畠奈津子さんからめざす会会員の皆様へのメッセージ「読んで戴いた皆様方のご評価も頂きたく郵便払込票も添付はしてありますが、もちろんこれは請求書ではありません。酷評でも結構ですので、皆様の感想を頂ければ嬉しく存じます」。応援をお願い致します。

